

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月 23日

事業所名 児童放課後等デイサービスいじゅの木

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	1		2	居室・就労移行の各 事業終了後、広いス ペースを活用してい る	将来、新設の予定があるので、十分なス ペースが確保される予定。
	2	職員の配置数は適切である		2	1		現時点で男子保育士を求人応募中。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化 の配慮が適切になされている	2		1	施設内は各部屋段差 はなく、フラットな造り となっている。	玄関に手すりや椅子を設置予定。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目 標設定と振り返り)に、広く職員が参画して いる		3			日々申し送りにより情報共有を行なっている が、さらに定期的なミーティング等を通して 業務改善に繋げていきたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりア ンケート調査を実施して保護者等の意向等 を把握し、業務改善につなげている	3			アンケート実施に よりご意見を頂き、 改善に努めてい る。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	1	2		ホームページにて 公表している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている		3			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している	3				コロナ禍により、オンライン研修が主になっ ている。情勢に合わせて積極的に参加に努 める。
適切な支 援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護 者のニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	3			送迎時やモニタリ ング時に情報共有を行 い、個別支援計画書 を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するため に、標準化されたアセスメントツールを使用 している		3			
	11	活動プログラムの立案をチームで行ってい る	2	1			活動の企画、立案を個人で行うこともあるので、 情報共有をしながらチームで取り組んでいく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫して いる	3			週ごとに職員間で担当 を割り振り、様々な活動 の実施に努めている。	常に様々なアイディア、工夫をこらし、子ども 達の特性に合わせた活動を取り入れてく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	2	1			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活 動を適宜組み合わせ放課後等デイサービ ス計画を作成している	3				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担に ついて確認している	3			朝礼にて申し送りや、 活動内容の情報共有 を行なっている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを し、その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している	3				
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている	3				支援内容や出来事に関する記録は日々行なっ ているが、さらに支援の検証や改善に繋げるため、 記録の質の向上に努めていたい。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デ イサービス計画の見直しの必要性を判断して いる	3			半年ごとのモニタリ ングにて、保護者と情 報共有を行いながら 見直しを行なってい る	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み 合わせて支援を行っている	1	2			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3			コロナ禍だが、可能であれば児発管以外にも担当も同席できるようにしている。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	3			お迎え時や必要に応じて、積極的に学校と情報共有に努めている。	お迎え時に担任と引継ぎができないケースもあるため、十分な引継ぎができるように積極的に協力を呼びかけていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		2	1		現在対象児童なし。受け入れる際には主治医等との連絡体制を整える。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		2	1		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	1		移行の際には情報提供を行い、引き続き一貫性のある支援ができるように連携している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		2	1		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			3		コロナ禍による感染拡大防止のため、実施できていない。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している		1	2		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3			日々保護者との情報共有を心がけている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		1	2		引継ぎ時に助言等を行なっているが、ペアレント・トレーニングの実施はなかったため、今後実施に向けて研修や勉強会を通して取り組んでいけるように努める。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	1	2		契約時や必要に応じた際にその都度説明を行なっている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	2	1		チームにて話し合いを行い、まとまった意見を提供できるように努めている。	より良い助言や対応ができるように、研修や勉強会に積極的に参加していきたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			3		コロナ禍のため開催できていない。保護者のニーズも感じられるので今後開催できるように体制を整えていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3			玄関に苦情受付boxの設置している。苦情があった場合にはマニュアルをもとに臨機応	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	1		毎月事業所のたよりを発行し、事業所の取組や活動内容を発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	3			職員間で十分に周知徹底している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3				伝え方や表現方法によっては、間違ったニュアンスで各児童や保護者に伝わってしまう場合があるため、十分に配慮したうえで対応する。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			3		地域の行事にも目を向け、交流の場を広げていく。また、事業所の行事にも積極的に地域交流の機会を設けていきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	1		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3			定期的に避難訓練を実施している。避難訓練以外にも、SSTを通して児童への緊急時の対策などを周知していきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3			虐待防止研修に参加したり、施設内研修を実施している
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	1		契約時に十分に説明し、承諾のもと同意書を頂いている。対象となる児童がいる場合、記載し対応する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1		2	対象児童なし。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2		1	ヒヤリハット報告書の作成事例が少ないが、今後も事故やケガに繋がる要因を発見し、職員全員が安全性に意識をもつことができるように、積極的に日々の様子に目を向けていく。